

2024年8月9日

Osaka Metro Group

2024年度（2025年3月期）第1四半期決算

1. 2024年度第1四半期 連結損益計算書（総括）

第1四半期の営業収益は、鉄道の運輸収入などの増加により、34億円の増加。営業利益は、車両新造・更新等による減価償却費の増加などがあったものの、営業収益の増加により、24億円の増益。

（単位：億円）

	2024年度 1Q	2023年度 1Q	増減	
営業収益	485	451	+34	(+7.5%)
営業費用	359	350	+10	(+2.7%)
営業利益	125	101	+24	(+23.7%)
営業外損益	3	3	▲1	
経常利益	128	105	+23	(+22.0%)
特別利益	4	13	▲9	
特別損失	2	13	▲10	
法人税等	40	32	+8	(+24.5%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	88	72	+16	(+22.9%)

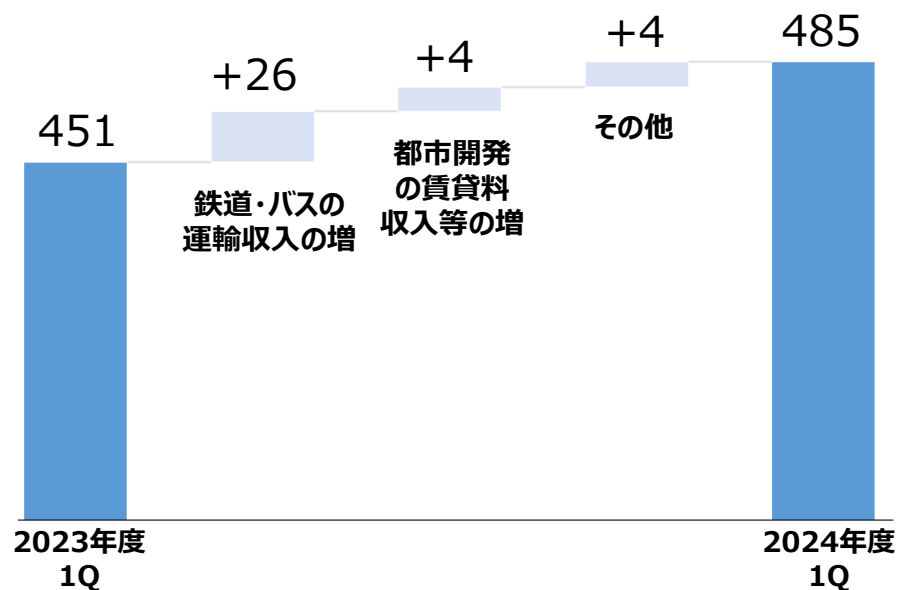
2. 2024年度第1四半期 営業収益・営業利益の増減要因

営業収益では、鉄道・バスの運輸収入が増加したことに加え、都市開発事業の賃貸料収入の増加などにより増収。

営業利益では、減価償却費の増加等があったものの、営業収益の増加により増益。

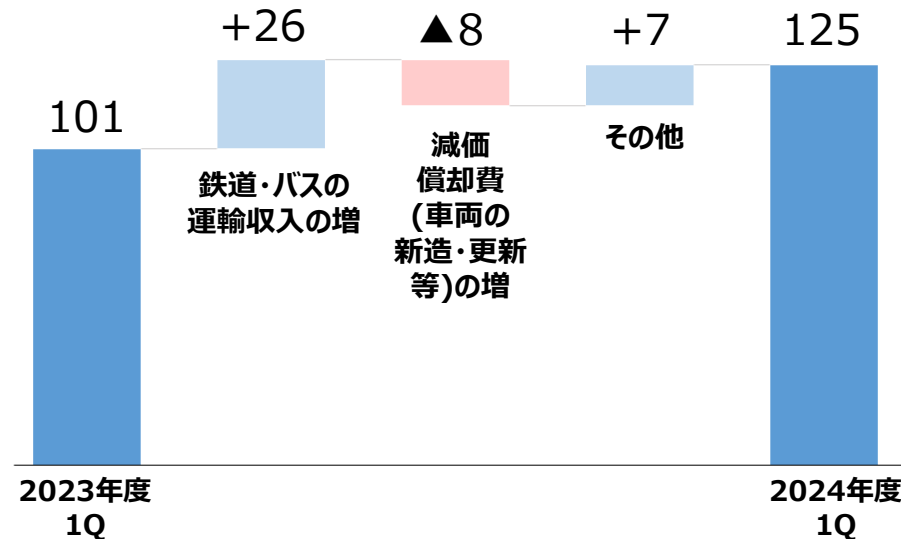
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



3. 2024年度第1四半期 セグメント別の状況（総括）

鉄道・バスの運輸収入が増加した交通事業をはじめ、マーケティング・生活支援サービス事業、都市開発事業、広告事業など、全てのセグメントにおいて増収増益を達成。

(単位：億円)

	2024年度 1Q		2023年度 1Q		増減	
	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益
合計	485	125	451	101	+34 (+7.5%)	+24 (+23.7%)
交通事業	449	117	420	95	+29 (+6.9%)	+22 (+22.9%)
鉄道事業	420	116	391	93	+29 (+7.5%)	+23 (+25.0%)
バス事業	35	1	33	2	+1 (+3.9%)	▲1 (▲66.1%)
セグメント内取引消去	▲6	(-)	▲5	(-)	▲2 (-)	(-) (-)
マーケティング・ 生活支援サービス事業	29	3	28	3	+1 (+3.3%)	+1 (+19.2%)
都市開発事業	10	4	6	2	+4 (+64.9%)	+2 (+97.4%)
広告事業	9	1	8	1	+1 (+16.5%)	+0 (+31.3%)
その他	▲12	0	▲11	1	▲1 (-)	▲0 (▲82.6%)

※「その他」には、グループ内受託事業およびセグメント間内部取引消去を含みます

4-(1). 交通事業の状況

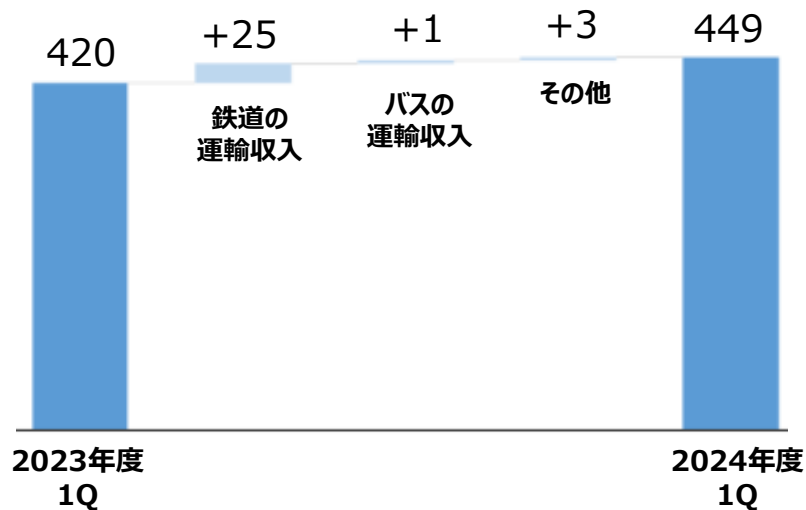
営業収益は、乗車人員の回復(国内旅行・インバウンドの需要回復等)により、29億円の増収。
 営業利益は、車両新造・更新等による減価償却費の増加などがあったものの、営業収益の増加により22億円の増益。

(単位：億円)

	2024年度 1Q	2023年度 1Q	増減	
営業収益	449	420	+29	(+6.9%)
営業利益	117	95	+22	(+22.9%)

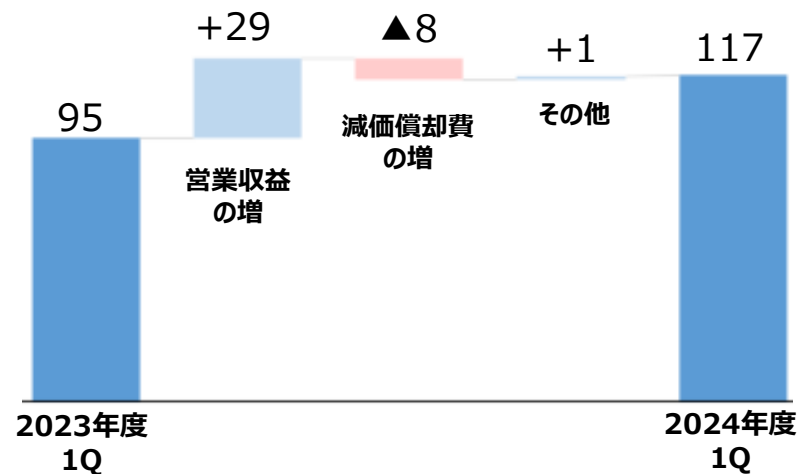
営業収益

(単位：億円)



営業利益

(単位：億円)

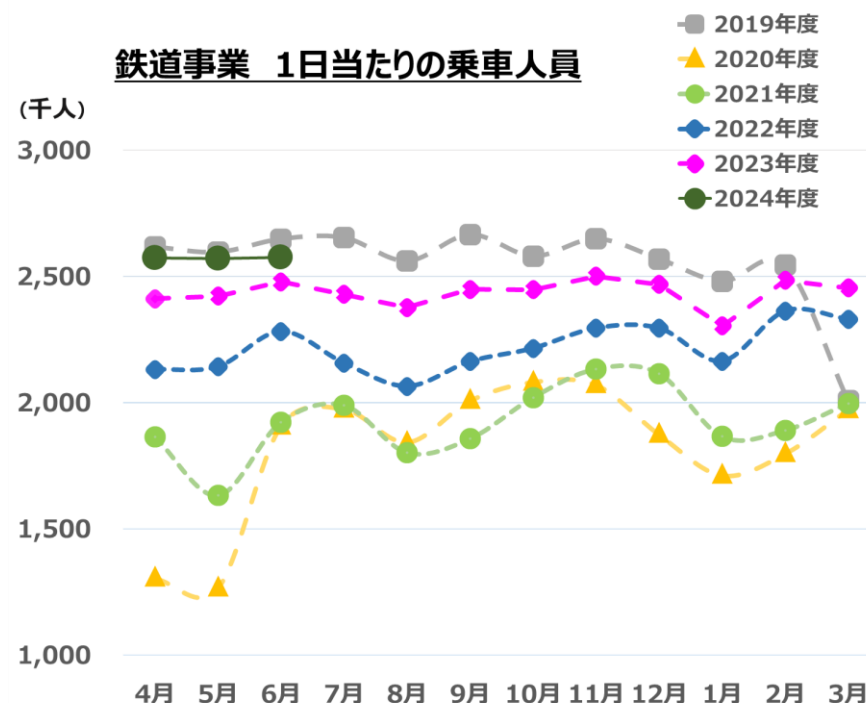


4-(1). 交通事業（鉄道）の乗車人員と運輸収入

前年同期に比べ、乗車人員は12百万人（+5.6%）増加。
 運輸収入は、乗車人員の増加に伴い、25億円（+6.7%）増加。

（単位：千人、億円）

		2024年度 1Q	2023年度 1Q	増減
乗車 人員	合計	234,200	221,851	+12,349 (+5.6%)
	定期	118,467	114,920	+3,547 (+3.1%)
	定期券	84,090	80,190	+3,900 (+4.9%)
	マイスタイル	34,377	34,730	▲353 (▲1.0%)
	定期外	115,733	106,930	+8,802 (+8.2%)
運輸 収入	合計	397	372	+25 (+6.7%)
	定期	162	156	+6 (+4.0%)
	定期券	104	97	+7 (+6.9%)
	マイスタイル	59	59	▲0 (▲0.8%)
	定期外	235	216	+19 (+8.6%)



4-(1). 交通事業（鉄道・バス）の主な取組み

安全・安心の取組みに加え、2025年大阪・関西万博に向けた取組みについて着実に推進。

安全・安心の取組み

<可動式ホーム柵の設置>

鉄道駅バリアフリー料金を活用して、お客さまのホームからの転落、列車との接触事故を防止すべく中央線 本町駅ほか5駅で供用開始。2024年度は谷町線5駅と四つ橋線・中央線全駅設置に向け、整備中。



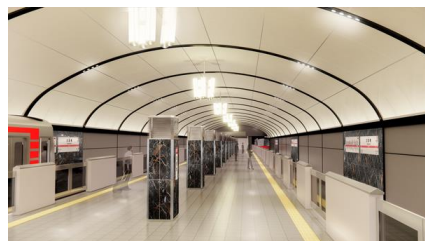
<セキュリティ対策>

中央線新型車両3列車に防犯カメラを設置。



<地下空間の大規模改革>

御堂筋線 淀屋橋駅ほか9駅についてグランドリニューアル工事を実施中。



大阪・関西万博に向けた取組み

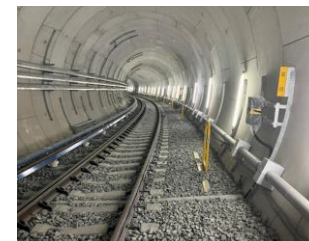
<新型車両>

中央線新型車両（400系）を3列車導入。同列車は5月23日、ローレル賞（※）を受賞。



<夢洲延伸工事>

土木工事や軌道・変電所などの工事が完成。引き続き駅構内の仕上げ工事など順調に進捗中。



<EVバス運行拡大>

EVバスによる路線バスの運行を4月26日及び4月30日に3台増車。今回の増車により、路線バスでの運行車両は5台に。



※ローレル賞とは毎年1回「鉄道友の会」の選考委員会の審議により、車両性能、デザイン、製造企画および運用面などの諸点において優秀と認められる車両を選定し授与されるものです。

4-(1). 交通事業（鉄道・バス）の主な取組み

デジタル乗車券（QR）サービスを開始等、お客さまサービスの向上に加え、各種イベントやキャンペーンなどの増収に向けた取組みを推進。

お客さまサービスの向上

<デジタル乗車券（QR）サービスの開始>

6月17日から、Osaka Metro全駅全改札口・シティバス全路線（※1）をQRコード（※2）で地下鉄・バスに乗車できるデジタル乗車券サービスを開始。e METROアプリ等での取扱を開始。



<（仮称）森之宮新駅>

中央線 森ノ宮駅から（仮称）森之宮新駅間の軌道事業の特許を取得。今後は大阪城東部地区のまちづくりと歩調を合わせ整備を推進。

<オンデマンドバス増車>

多くのお客さまにご利用いただけるようオンデマンドバス車両を増車。



※1 シティバスは、IKEA鶴浜/ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™行バス、及びオンデマンドバスを除きます。

※2 QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

増収に向けた取組み

<タイアップ企画の実施>

沿線情報誌「Metrono」の発行など、国内や海外インバウンドへ、沿線情報の発信を強化。人気キャラクターなどとタイアップし、沿線を回遊して楽しんでいただくデジタルスタンプラリーを実施。



<オンデマンドバス キャンペーンの実施>

6月3日から6月30日の期間、e METROアプリ利用者限定で、一定の条件を満たしたお客さまにOsaka Pointを進呈するキャンペーンを実施。

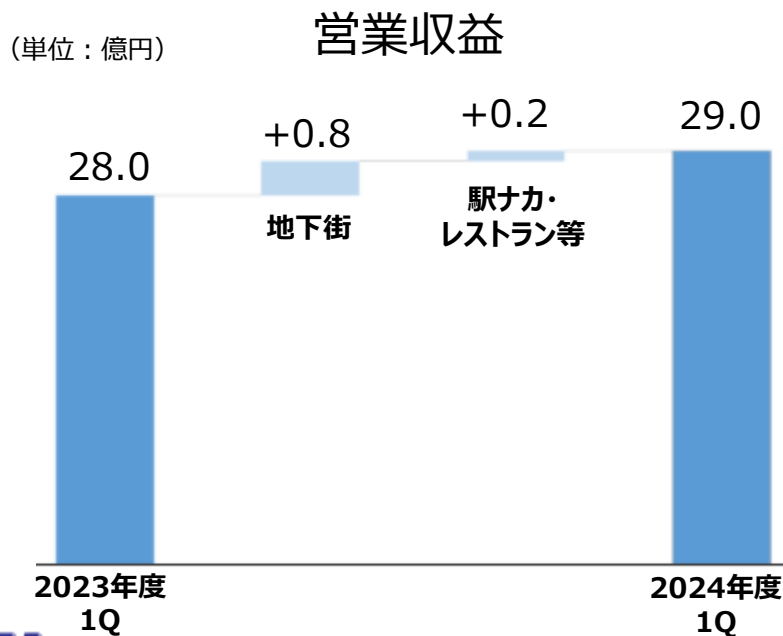


4-(2). マーケティング・生活支援サービス事業の状況と主な取組み

地下街の前年度に開業した直営店舗の売上や
 駅ナカのインバウンド・国内旅行者需要が堅調に推移したことにより、増収・増益。
 フィジカル空間でのサービス向上への取組み、駅周辺の利便性の向上とにぎわいの創出を推進。

(単位：億円)

	2024年度 1Q	2023年度 1Q	増減	
営業収益	29.0	28.0	0.9	(+3.3%)
営業利益	3.3	2.8	0.5	(+19.2%)



地下街

<6地下街共通デジタル商品券販売>

4月19日から6地下街で使える
 プレミアム率10%のデジタル商品券を
 販売(完売のため6月末日で
 販売終了)。



生活支援サービス

<Osaka Metroクリエイト商品の発売>

大阪のバッグブランド
 「master-piece」と初めてコラボレー
 ションし、新型車両400系をモデルに
 したバックパックとトートバッグを発売。

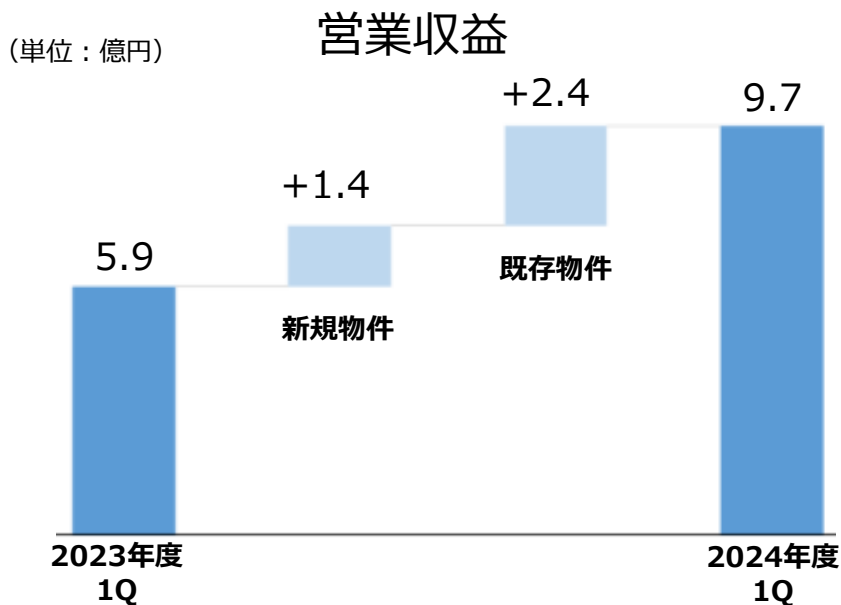


4-(3). 都市開発事業の状況と主な取組み

前年度下期に竣工した商業オフィス複合ビルや賃貸マンション等の新規物件、ホテルやオフィスビル等の既存物件による賃料収入の増加などにより、増収増益。住宅ニーズの高い駅周辺において、交通の価値向上につながる開発を推進。

(単位：億円)

	2024年度 1Q	2023年度 1Q	増減
営業収益	9.7	5.9	+3.8 (+64.9%)
営業利益	3.6	1.8	+1.8 (+97.4%)



分譲マンション

<メトライズタワー大阪上本町>

マンションの竣工までに全135戸が完売し、2024年7月から入居を開始。

1階～3階に商業施設「METRO TERRACE UEHOMMACHI」として、フィットネス、理容室やクリニックなど5つのテナントを8月にオープン予定。



<メトライズ森ノ宮中央>

中央線 森ノ宮駅徒歩5分、地上15階・総戸数98戸。

2023年11月に分譲を開始。

現在は最終分譲中。



4-(4). 広告事業の状況と主な取組み

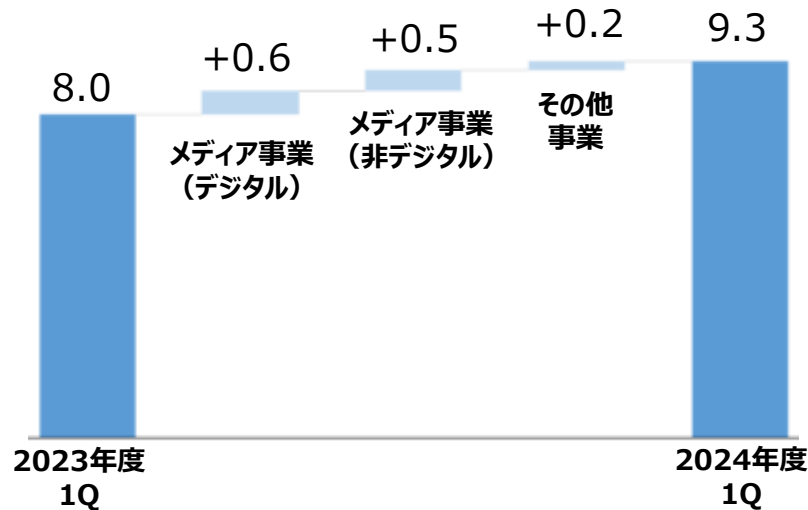
新規媒体の設置や営業努力に取り組んだことにより、増収増益。
交通広告の価値向上を目指し、DX推進や新規メディア開発などの取組みを実施。
旅行者と生活者や地域を繋ぐ効果的なプロモーションを推進。

(単位：億円)

	2024年度 1Q	2023年度 1Q	増減	
営業収益	9.3	8.0	+1.3	(+16.5%)
営業利益	1.5	1.1	+0.4	(+31.3%)

(単位：億円)

営業収益



デジタル領域の取組み

6月に「デジタルサイネージアワード2024」において、
生成AIによるクリエイティブで駅メディアを対象にしたVR
(仮想現実) アイトラッキング調査が評価され、優秀賞を受賞。



新規事業

ローカルツアー・ガイドサービス
「Osaka JOINER」のサービス運営を推進。
観光庁の地域観光新発見事業において
補助事業として採択。



5. 連結貸借対照表

投資は、可動式ホーム柵の設置や車両新造等の安全投資を中心に128億円実施。
有利子負債は、3月計上の投資の支払実行(未払金の減)により178億円の増加。

(単位：億円)

	2024年度 1Q末	2023年度末	増減	主な増減要因
資産	9,916	9,916	+1	
流動資産	526	598	▲72	現金及び預金 ▲25
固定資産	9,391	9,318	+73	投資 +128 減価償却費 ▲118
負債	3,964	4,108	▲145	
流動負債	2,213	2,363	▲150	コマーシャルペーパー +180 未払金 ▲302
固定負債	1,751	1,745	+5	
純資産	5,953	5,807	+145	
現金及び 現金同等物	196	221	▲25	
有利子負債	3,272	3,094	+178	コマーシャルペーパー +180 短期借入金 ▲2
ネット有利子負債	3,076	2,874	+203	
自己資本	5,882	5,739	+144	



**Osaka Metro
Group**